

二葉

東京支部だより

同窓会に行こう！

東京支部長 内田志づ子



平成24年度から諏訪二葉高校同窓会東京支部長になりました内田(旧姓上條)です。よろしく

お願いします。昨年から副支部長を務めさせていただく中で、「同窓会とは何か」ということを考えました。

近年、どこの高校でもそうですが、二葉同窓会東京支部も会員の減少、会員の高齢化、役員選出が難航すること等、様々な課題を抱えています。若い方が同窓会に入らないと嘆く方も多いのですが、昔も今も、同窓会なんて卒業して十年や二十年はなかなか意識するものではありません。私もそうでしたが、仕事や家庭生活に追われ郷里を懐かしいと思うことはあっても、わざわざ東京で同窓会に参加しようとは考えもしませんでした。やっと意識し出したのは余裕ができた四十代後半からです。年を重ねると、当時は話したこともなかった同期の友人とも、自然に打ち解けられるようになるから不思議です。

十代後半の多感な時期に、純粋に生き、密度の濃い学生生活を共に過ごした仲間と会えば、心の奥深くに眠っていた高校時代の記憶が一瞬で蘇るのです。

二葉も共学になって二十年が過

ぎました。東京と諏訪の距離も大変近くなりました。母校に対する「想い」は世代によってそれぞれです。

同期会ならともかく、二葉の先輩と後輩が交流するなど敬遠する方もいるでしょう。

同窓会への考え方はいろいろあってよい、まずは、同期会や支部の企画行事に気軽に参加し、一歩を踏み出してみませんか。

人生の時間は限られている中で、東京(関東)に来たからこそ、新たに芽生える故郷意識もあります。母校を同じくすること、この一点でネットワークを拡げ、豊かで心温まる絆を創り上げましょう。

東京支部の24年度の方針

- 諏訪二葉高校同窓会東京支部の目的「会員相互の融和親睦を図る」ことを念頭におき、支部の活性化を図る。とりわけ、若い世代がこの組織に参加しやすいように環境を整える。柔軟で親しみやすい同窓会活動を目指す。
- そのために
- 支部活動を親睦行事(教養講演会等の開催)が中心となるように変革する。
- クラス会、同期会、もより会等が開催しやすいように具体的支援を行う。
- 組織活動をスリム化し、役員が余裕をもって活動できるようにする。
- 支部活性化のために予算を適正かつ有効に使う。

総会報告

東京支部副支部長 小松喜久子

平成24年5月22日(火)東京支部総会が日本青年館において開催されました。出席者は174名、来賓として今年度着任された五味千万人校長先生、矢崎同窓会長、常田副会長、五味副会長、松沢副会長、恩師の平島佐一先生にお越しいただきました。

北村副支部長の開会挨拶のあと、牛尼容子さん(21回生)の伴奏で校歌を斉唱し、その後物故者の皆様に謹んで黙祷を捧げました。

木下支部長より「先輩から脈々と受け継がれてきた東京支部も、最近役員も難しなくなり、私どもは再度引き受けることになり一年間活動してきました。維持費も先細り傾向にあり、何とかして若手に同窓会に関心を持っていただきたく、手紙や電話などの連絡をしたものの駄目でした。これからは、同期会の活性化をはかり参加しやすい、楽しい同窓会になるようにしていただきたいと思えます」との挨拶がありました。

五味校長先生からは「これまで女子の割合が多かったが、今年度は男子の入学が増えてよろこばしいことです。部活動では県内に6校しかない女子のサッカー部がインターハイ目指して頑張っています。卒業生が2万人を超えます」などの、ご挨拶をいただきました。

した。

矢崎同窓会長からは、新任のご挨拶と、すこやか像のクリーニングの様子をお話していただきました。

引き続き議事に入り、議長に稲村和子さん(15回生)が選任され、23年度事業報告、決算報告、監査報告、24年度役員、事業計画、予算内規の一部改正などが承認されました。

第二部は遠藤真弓さん(高校39回生)をお招きして、市川一雄作「と川石人語り」と題して、語りをしていただきました。懐かしい方言を交えた、万治の石仏にまつわる遠藤さんの語りに、会場全体が引き込まれました。

第三部の茶話会は、高校3回生の7名の八十歳をお祝い、花東の贈呈をしました。代表して鮎沢清子様よりご挨拶をいただきました。最後に「白き翼」を歌って閉会いたしました。総会がスムーズに進行できましたこと、役員一同心よりお礼申し上げます。



高校3回生の皆さん

平成23年度諏訪二葉高等学校同窓会東京支部決算報告

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

1. 本会計

＜収入の部＞

(単位：円)

項目	予算	収入	備考
1 前年度繰越金	3,039,676	3,039,676	<寄付金ご芳名>故林芳子様(高4)、故露木サチ子様(高8)、村瀬妙子様(高3)、松沢さだ江様(高女25)、青木志登美様(高16)、高女41回生、高校2回生、高校8回生
2 維持費	1,200,000	1,313,000	
3 寄付金等※	0	245,543	
4 雑収入	1,000	626	貯金利息
収入合計	4,240,676	4,598,845	

＜支出の部＞

(単位：円)

項目	予算	支出	備考
1 総会 講師謝礼・お車代	120,000	120,000	佐々木愛様
会場費・諸経費	100,000	61,614	総会資料印刷代・会場費等
2 支部便り作成費	140,000	127,169	「二葉」第16号、2500部
3 弔慰金	10,000	4,617	弔電レタックス
4 役員通信費・交通費	160,000	179,260	役員通信費53,000、役員交通費126,260
5 役員会費	140,000	151,403	役員会11回(4人会含む)
6 幹事会費	220,000	168,235	幹事会2回
7 送料・通信費	300,000	252,480	総会案内送料、宅急便、はがき代等
8 印刷・コピー費	140,000	115,234	封筒、総会案内・資料の印刷・用紙・コピー代
9 事務用品費	10,000	11,721	総会・幹事会用の名札、ラベル等
10 渉外 二葉関係	20,000	22,120	本部総会交通費
連合同窓会	100,000	56,060	東京同窓連、南信同窓連
11 雑費・予備費	10,000	3,680	振込用紙印字代等
支出小計	1,470,000	1,273,593	
12 東京支部同窓会基金積立金	30,000	30,000	
13 次年度繰越金	2,740,676	3,295,252	
支出合計	4,240,676	4,598,845	

平成24年度 東京支部予算

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

1. 本会計

＜収入の部＞

(単位：円)

項目	予算	備考
1 前年度(23年度)繰越金	3,295,252	
2 維持費	1,200,000	
3 寄付金等	0	
4 雑収入	1,000	貯金利息
収入合計	4,496,252	

＜支出の部＞

(単位：円)

項目	予算	備考
1 総会 講師謝礼・お車代	120,000	
会場費・諸経費	100,000	総会資料、案内印刷費、会場機器代等
2 支部便り作成費	140,000	支部便り印刷費、通信費等
3 弔慰金	10,000	弔文レタックス
4 役員通信費・交通費	160,000	役員通信費53,000円、交通費107,000円
5 役員会費	140,000	役員会、会場費(土日に役員会開催の場合)
6 幹事会費	220,000	幹事会2回分
7 送料・通信費	300,000	総会・幹事会案内送料、宅配便
8 印刷・コピー費	140,000	封筒・資料印刷、用紙、インク代、コピー代
9 事務用品費	10,000	
10 渉外 二葉関係	30,000	本部総会交通費
連合同窓会	100,000	東京同窓連、南信同窓連連費用
11 雑費・予備費	10,000	維持費振込用紙印字代他
支出小計	1,480,000	
12 東京支部同窓会基金積立金	230,000	同窓会基金へ。うち、200,000は故林芳子様(高4)からのご寄付
13 次年度(25年度)繰越金	2,786,252	
支出合計	4,496,252	

2. 東京支部同窓会基金

(単位：円)

項目	予算額	備考
1 前年度繰越金	2,822,000	
2 24年度積立金	230,000	
合計	3,052,000	

2. 東京支部同窓会基金

(単位：円)

項目	予算額	実行額	備考
1 前年度繰越金	2,792,000	2,792,000	
2 23年度積立金	30,000	30,000	
合計	2,822,000	2,822,000	次年度繰越金

上記の通りご報告いたします。

上記は会計監査の結果間違い

平成24年3月31日

ありません。

会計係 岩 附 喜美子 ㊟

平成24年4月10日

竹 本 恵 子 ㊟

会計監査 市 川 みどり ㊟

村 松 美 弥 子 ㊟

杉 浦 澄 尾 ㊟

平成24年 東京支部総会会計報告

平成24年5月22日 開催

＜収入の部＞

(単位：円)

項目	金額
1 会費(5000円×167名)	835,000
2 御祝儀等	20,000
3 本会計より	204,510
合計	1,059,510

＜支出の部＞

(単位：円)

項目	実行額
1 講師謝礼	120,000
2 シダックスレストランマネジメント会食代	817,462
3 総会冊子代	68,460
4 雑費	53,588
合計	1,059,510

上記の通りご報告いたします。

平成24年6月7日

会計 竹 内 誠 子 ㊟

村 松 多 寿 子 ㊟

平成24年度 東京支部事業内容

平成24年9月現在

日時	行事	事業内容
5月22日(火)	東京支部定期総会	
6月9日(土)	第1回役員会	役員・幹事名簿、事業計画確認 「今後の東京支部の在り方」について、維持費について検討
7月7日(土)	東京同窓連総会	正副支部長参加
7月14日(土)	第2回役員会	歴代正副支部長会準備 「役員選出方法」について検討、 幹事会への提案準備
8月25日(土)	第3回役員会	歴代正副支部長会準備、資料作成
8月30日(火)	歴代正副支部長会	「東京支部の在り方」「役員選出方法」等について意見交換
9月25日(火)	第4回役員会	幹事会準備、会報校正、会報発送準備
10月23日(火)	第1回幹事会	東京支部事業の経過報告、 改革案の提案・意見交換、同期 会開催呼びかけ
11月27日(火)	第5回役員会	東京支部改革案の検討
H25年1月12日(土)	第6回役員会	幹事会準備
2月26日(火)	第2回幹事会	次期幹事・役員名簿確認、改革 案の検討、総会関連事項検討
3月26日(火)	第7回役員会	総会案内発送、定期総会準備、役 員引継
4月20日(土)	第8回役員会	新旧役員引継、役割分担決定、会 計監査
5月19日(日)	第9回役員会	総会前々日準備
H25年5月21日(火)	東京支部定期総会	

平成24年度役員紹介

- ①出身地 ②出身中学校
- ③高校時代の部活等
- ④マイブーム
- ⑤東京支部同窓会への抱負

支部長

内田 (上條) 志つ子 (高21回)

①岡谷市・今井 ②岡谷北部中 ③バスケット部・前期生徒会長 ④サッカー観戦 ⑤親しみのある同窓会組織に改革したい

副支部長

小松 (小松) 喜久子 (高21回)



①富士見町・富士見 ②長野市立裾花中 (富士見高原中から転校)

③音楽部 ④手芸、テレビ体操 ⑤若い方 (男性も含めて) が参加しやすい楽しい同窓会に変えていきたい

副支部長

杉本 (柳沢) 澄江 (高21回)



①茅野市・泉野 ②長峰中 ③陸上部 ④フランドス ⑤和氣 あいあいを末永く

副支部長

大竹 (小野) みどり (高21回)



①塩尻市・北小野 ②両小野中 ③スケート部 ④習い始めた習字 ⑤若い方にも参加し

易い同窓会に成る様にしたい

会計

竹内 (荒崎) 誠子 (高25回)



①岡谷市・山下町 ②岡谷北部中 ③心理学クラブ ④ゼリ作り ⑤もっとと気楽に皆が携われる同窓会にできたらと思います

会計

村松 (白鳥) 多寿子 (高25回)



①岡谷市・山下町 ②岡谷北部中 ③考古学部 ④山登り、消防団 (救命講習指導) ⑤役員負担を減らし、気軽に参加できる同窓会にしたい

記録

安藤 (河手) 恵美子 (高29回)



①辰野町・上辰野 ②辰野中 ③放送部 ④ネットサーフィン ⑤先輩方の誇りとパワーを受け継ぎつつ、広い年代に東京支部同窓会を知っていただき、気軽に参加していただける企画を考えたい

「平穩死について」 ⑤私の愛がないわけではない、でも同窓会のしくみも現状も知らない……そんな一人として、何ができるか考えていきます

記録

阿部 (武井) 久美子 (高29回)



①岡谷市・加茂町 ②岡谷北部中 ③バドミントン部 ④

記録

谷口 (宮坂) 文 (高30回)



①茅野市・金沢 ②長峰中 ③天文部 ↓ 心理クラブ・帰宅部ってことです ④いかに

人をほめるか、長所を探すこと ⑤何とか同期生を引き込みみたいと思います

会計監査

常松 (林) 竜子 (高23回)

①岡谷市 ②岡谷南部中 ③JRC (青少年赤十字) ④折紙 ⑤楽しく有意義な同窓会になるよう出来ることを協力していきたい

会計監査

秦 (清水) 礼子 (高23回)

①茅野市・ちの ②永明中 ③ペンフレンド部 ④登山・ハイキング ⑤楽しく若い方達も気軽に参加できる会の形を考えてゆきたい

平成24年 諏訪二葉高校同窓会東京支部 代表幹事

卒業	氏名	卒業	氏名
高校4回	加藤 菊江	高校23回	宇田川美和子
高校5回	白川 道子	高校24回	加藤 美子
高校6回	青木 朋江	高校25回	竹内 誠子
高校7回	村松 美枝	高校26回	小楡山 恭子
高校8回	東(ヒガシ)征	高校27回	鈴木 泉
高校9回	堀川 節子	高校28回	原 素子
高校10回	三浦 一重	高校29回	櫻井 佳代子
高校11回	神山 八州江	高校30回	河西 まゆ美
高校12回	栗又 厚子	高校31回	松木 きよみ
高校13回	伊藤 久子	高校32回	高際 みどり
高校14回	永田 福子	高校33回	藤森 ゆり子
高校15回	川上 博子	高校34回	池上 敦子
高校16回	植村 壽子	高校35回	新堀 千春
高校17回	二階堂なつみ	高校36回	石田 詳子
高校18回	吉村 ゆき子	高校37回	飯森 ゆかり
高校19回	下田 せい子	高校38回	大高 さち子
高校21回	湯澤 眞子	高校39回	大庭 節子
高校22回	伊藤 みふね	高校40回	藤井 みさき



諏訪二葉・五味校長と矢崎同窓会長

南信同窓連理事 (副事務局長) 中坪 (小沢) 清子 (高18回) ①岡谷市・上浜 ②岡谷南部中 ③社会部・生徒会副議長 ④登山、旅行 ⑤旧友、先輩、後輩との新しい出会いを楽しんでいます

平成24年
総会講演

『と川石人語り』

遠藤真弓氏（高校39回生）

語りの力、言葉の力

本年度の総会第二部では、講演ではなく、語り芝居を公演していただきました。

遠藤真弓さんは一九六八年、岡谷市生まれ。高校39回生です。劇団前進座付属俳優養成所、劇団文学座附属演劇研究所を卒業後、役者として始動。言葉と音で構成する二人舞台「おとのはことのは」をはじめ、現在は語りを中心として幅広く活躍されています。



人の心の深淵な部分に触れる表現活動をしたいと考えていた遠藤さんは、下諏訪町の「万治の石仏」に材を取った物語『と川石

人語り』に出会って深く心を打たれ、二〇〇四年に岡谷市で初演。以来、「ライブワークにしていきたい」と語るほど思い入れ深い作品です。

《昔が一つあったと申します。ただいま語り申します御物語、国を申せば風はやい信濃の国、風の祝が隠れるスワの郡、草に隠れた万治阿弥陀の由来にて、あら〜説きたて申します。》

近年の創作ではなく、古くからあった民話のような香りと響きを持ったこの作品には、なつかしい諏訪地方の方言がふんだんに登場。また、全編が七五調でリズムよく紡がれているので、言葉がぐいぐい入ってきます。張りのある遠藤さんの声が伝える言葉の力によって、哀切な物語の世界に誘われました。

衣裳は、素朴な古い野良着風で、首には手ぬぐい。以前は山の神のようないでたちでやったこともあったようですが、「今日は、このお話の中に出てくるへおよね」の



子孫のようなつもりでやらせてもらいました」と遠藤さん。

「実は首に巻いていたこの手ぬぐいは、二葉卒業時に同窓会から記念品としてもらったものです。これをこんなかたちで活用できるとは思っていませんでしたね」とにっこり。せつない物語を演じている間のきりりとした表情とは打って変わった笑顔が、とてもチャーミングでした。

石人物語誕生のきっかけ

『と川石人語り』の作者は下諏訪町在住の市川一雄さん（一九九三〜）。発表されたのは一九九三

年のことです。

小説化しようとしたきっかけは、新田次郎先生と万治仏の話をしていた時に「小説にお書きなさい」と言葉をかけられたことだったそうです。

幼い頃から砥川の浮島界隈が遊び場だった市川さんにとって、その奇妙な石像はありがたい石仏というよりは、へ怖ろしい石人として記憶に焼きついていったといいます。

砥川に人柱が立ったという話は実際にはないようですが、異形の石像を民俗説話のようなかたちの物語にできないかと考えたとき、この「万じ石人」の物語が自分でも不思議なほどすらすらと生まれてきたのだそうです。

二〇〇二年に出版された『と川石人語り』（市川一雄著 草風社刊）の「作者おぼえ書き」には、新田次郎先生との交流や、岡本太郎画伯が万治の石仏に関心を持って世に紹介するようになったエピソードなど興味深い内容がいろいろ収録されていますが、残念ながら現在は絶版状態で、復刊が心待ちにされています。

（阿部）

終了後のアンケートから〜

・遠藤真弓さんの語りが大変良かった。

・張りのある遠藤さんの語りに引き込まれました。私は下諏訪町砥川のうぶ湯で育った者、内容にも興味がありました。一時間あつという間のひとときでした。ありがとうございました。

・ひとり芝居よかったです。市川さんがお見えになれず残念でした。

・若い世代でこういう語りの伝承芸をやられる方がいるのは素晴らしい。

『と川石人語り』あらすじ

貧しい農民（万じ）は、幼い二人の息子（竹いち）と（与すけ）とつましく暮らしていた。大飢饉で死人が出るほど村中が飢え、大尽屋の蔵に火が付けられた。その濡れぎぬを着せられたのが、まだ七歳の（竹いち）だった。（万じ）は自分が砥川に架設中の薬師渡の橋の人柱に立つと、息子の命乞いをした。

十年の年月流れて、若者に成長した（竹いち）と（与すけ）は、父の供養のために川のほとりの烏帽子石に大石をのせ、石像の阿弥陀さまを彫ることにした。できあがった阿弥陀のお顔は、（万じ）に生き写しだった。

活躍する同窓生

漫画家

伊藤 理佐さん

(高校40回生)

二葉時代、現役女子高生漫画家として鮮烈デビューした伊藤理佐さん。ほんわかとしたかわい絵と絶妙なギャグの達人の漫画は若い世代から年配層まで大人気です。その素顔を紹介すべく、誌上インタビューにてお話を伺いました。

漫画家になると決めたのは？

恥ずかしながら保育園あたりから漫画を描いていました。小学一年生でコマ割り漫画をノートなどに描いたりして、この頃からなぜか漫画家になる自信があり、(なぜだ?)「17歳でデビューする」と決めていて(フシギだ...)17歳でデビューしたあとは食べていく自信があり(ナゾです...)短大を出た頃には「いつヒットするかなー」って思っていました。いや、人間って本当に恐ろしい生き物だと思えます。自分がこわい。その頃よんでいたのは主には「少女漫画」で「キャンディキャンディ」

「巨人の星」は何回もよみました。あ、「巨人の星」は少女漫画じゃないですな。



デビュー時の地元や二葉での反応

二葉時代、とーっても成績が悪かったんで、親や先生が大変心配してました。デビューした時は「あ、そういう方向があったのか!!」と周りがホッとした感じでした。デビュー作「お父さんの休日」が雑誌に載った日、担任だった竹田泰三先生が学校をぬけて雑誌を買ってきてくれました。「イトウ!!本当に載っているよ!!」って、とても喜んでくれて、今でもその時の先生の顔を思い出すとジーンとします。同じ日、家に帰って、父親が雑誌を20冊、しょって帰ってくるのを家の中から見ちゃって、それも忘れられない風景です。

どんな二葉生でした？

成績が悪くて、私服もかっこ悪い、漫研に美術部。三年生の時、男女共学になりました。一年の男子と仲良くしてるかっこいい、バンドとかやってる同級生にひっそりシットして居るようなイヤ〜な奴でした。

東京の短大時代

一言でいうと「貧乏」でした。自分の漫画の仕事をしつつ、アシスタントにも出かけ、学校にも行き、寝不足でした。今日は銭湯に行き、ご飯を食べるか、と悩んだり。:(お金がなくくて...)でも、当時は上京して、初めての一人暮らし、一人の時間というのがとても楽しくてつらい思いはないです。

新人漫画家の頃

自分の仕事だけでは食べていけ

ず、アシスタントにでかけていました。「がんばれ〜」という意味あいで、当時、親に仕送りを止められて、あ、年間の学費は払ってもらっていたので、生活費だけですが、自分で稼がねばならずやりくりしました。村田順子先生という先生の所でアシスタントさせてもらっていたのですが、そこはご夫婦でたいへん食いしん坊で、その頃、食べたことも見たこともない、おいしい食べ物たくさん食べさせてもらった。そこでは、漫画という技術より、食べ物とか、礼儀とか、仕事の考え方とか、大切なこといっぱい教わりました。今でも、アシスタントはしていないけど、まだ怒られたり、教わったりしています。

そこで「のだめカンタービレ」の二ノ宮千子っちとも知り合って、当時18歳同志、仲良くなりました。仕事の不安も悩みもあつたけど、なんか楽しかったなあ。

故郷(諏訪、原村)での思い出

どうも「八ヶ岳を見ながら家に帰る」というのが体にしみついた思い出のようです。今でも夢によく帰り道が出てきます。東京にいても頭の中の地図がずっと「原村」というか:「故郷」ってすごいです。実は原村の観光大使に任命されました、やっていきます。温泉もあるし、星もきれいで、原村にぜひ遊びに来て下さい。

これまでの執筆活動において苦労されたこと・嬉しかったこと

苦労は:人に自慢(?)できるような苦労はしていません。苦労:やはり思いつきません。すみま

せん。うれしいのは、やはり、同じ職業ということで、昔から憧れている漫画家の先生にお会いできることです。しかもその憧れの先生が自分の漫画をよんでいてくれる時がある:死にそうにうれしい時があります。

子育て中とお聞きしました

今まで自分のためだけに使っていた時間を、子供にあげること、がこんなに大変だとは思っていませんでした。実は子育て漫画を描いています。「オレンジページ」という雑誌に連載中。「おかあさんの扉」といいます。①巻も出ています。詳しくはそちらを読んでいただけたら:これじゃ宣伝ですね。すみません。

現在、ご興味をもたれていること

笑われそうですが、今、自分が楽しく気持ちよく暮らすことに、ものすごく真剣です。そういうイミでは「自分」ってことになるのでしょうか。恥ずかしい:

今後の創作活動の予定

産休でお休みしていた連載の仕事元に戻しつつ、仕事は声をかけてもらえる限り続けたいと思ってます。エッセイ漫画が増えちゃいました。ありがたいことですが「おいピータン!!」のような創作漫画のほうもがんばりたいと思います。どうか、同じ学校の出身者」ということで本など手にとって頂けたらうれしいです。

伊藤さんは現在、朝日新聞に『大人になった女子たちへ』のタイトルでリレー連載するなどエッ

セイラストとしてもご活躍中です。天才漫画家として熱烈なファンを持つ伊藤さんですが、作品の随所にあふれる故郷の香りに懐かしさと温かさを感じます。私たちもすっかりファンです。(谷口・内田)

※イラストは伊藤さんが東京支部のために描いてくれたものです。

伊藤 理佐プロフィール

1969 長野県諏訪郡原村生まれ
1985 諏訪二葉高校入学
1987 『月刊ASUKA』掲載
『お父さんの休日』でデビュー
1988 諏訪二葉高校卒業後、女子美術短期大学彫塑科へ
漫画家村田順子さんのアシスタントのかたわら自作を次々発表

1991 女性誌連載の『おるちゅばんエビちゅ』が大ヒット
2005 『おいピータン!!』で第29回講談社漫画賞・少女部門受賞
2006 『女いつびき猫ふたり』
『おいピータン!!』『おんなの窓』等の一連の作品で、第10回手塚治虫文化賞短編賞受賞

2007 漫画家吉田戦車さんと結婚、現在一児の母
主な作品
『おいピータン!!』『いいようにはしないから』『は行でいこう』
『渡る世間はオヤジばかり』『モモちゃん』『女のはしり道』講談社
『お父さんの休日』『ご指名ねがいませう』『哺乳類はお年頃』角川書店
『おるちゅばんエビちゅ』『微熱なバナナ』『ピロミンとジュロット』
『やっちゃったよー戸建て』双葉社
『おんなの窓』文藝春秋
『ひげピヨ』『結婚泥棒』集英社
他 著作多数(アニメ化作品もあり)

平成25年 東京支部総会のお知らせ

日 時：平成25年 5月21日 (火) 10:30~15:00
 会 場：日本青年館 (新宿区) 4F ホテル宴会場「アルテ」 ☎ 03-3475-2525
 講演講師：柳谷郁子 氏 (高校8回生)
 演 題：『望郷 — 姫路広畑俘虜収容所通譯日記』
 会 費：5000円 (昼食パーティー) ※総会参加申込は平成25年3月末に往復ハガキでご案内します

●平成25年 東京支部定期総会 講師紹介●

作家

柳谷郁子(やなぎたに いくこ)さん (高校8回生)

長野県岡谷市出身。諏訪二葉高校、早稲田大学卒

文芸同人誌『播火』編集長。

第14回大阪女性文芸賞、第3回小諸藤村文学賞受賞

著書：『望郷 姫路広畑俘虜収容所通譯日記』(鳥影社)、『月柱』(読売新聞社)、
 『風の紋章』『花ざらい』(鬼灯書籍)、『諏訪育ち』『夏子の系譜』(三月書房)、
 ほか、小説、エッセイ集多数

絵本：『官兵衛さんの大きな夢』(絵・本山一城。神戸新聞総合出版センター)

童謡作詞：『いのちってなあに』(作曲・竹内邦光ほか)

出版予定情報：『十六歳のエチュード—真夏』平成24年10月末出版 ~舞台は諏訪二葉高校、二葉ヶ丘、諏訪の自然~
 (筆者が二葉高校に入学した一年生の夏休みに宿題として出された読書感想文に代えて提出した四百字
 詰め原稿用紙143枚にわたる小説です)



事務局だより

☆同窓会東京支部の改革の第一歩として、「東京支部だより」をいつもより、半年早く発行することができました。例年、「東京支部だより」は五年以内に一度でも維持費を納入された方に送ってりましたが、今回は東京支部会員の方全員に送りました。転居先不明で届かず返送される方が多数あると思われまます。同窓生の転居先の情報をお寄せ下さい。

☆クラス会、同期会を新たに開催する場合は役員または代表幹事にご相談下さい。

☆東京支部は年千円の維持費で活動しています。引き続き納入にご協力ください。なお、本部維持費とは別の納入になります。

編集後記

☆今年度は東京支部改革の年です。会則の変更や役員選出方法の変更等、いろいろあります。役員

謹んでご冥福を
 お祈り申し上げます
 (平成24年9月25日現在)

高女29	荻上 利江様 (小松)	H 24・4
高女31	堀内寿穂子様 (矢島)	H 24・6
高女33	宮坂 俊子様	H 23・6
高女36	馬場 利子様 (藤沢)	H 24・3
高校4	田中 睦 様 (平林)	H 24・5
高校13	両角 史 様 (両角)	H 24・4
高校22	宮田かおる様 (宮坂)	H 23・8



も少し忙しく楽しくなってきました。
 ☆遠藤真弓さんの語り、伊藤理佐さんの漫画、柳谷郁子さんの小説、人生の幅が広がっていく感じです。

☆忙しい中、快く取材や原稿執筆にご協力いただいた皆様に感謝しております。

《役員連絡先》

支 部 長 (内田)	0 4 2・4 2 3・4 5 9 8
副支部長 (小松)	0 4 5・5 8 4・7 2 8 7
副支部長 (杉本)	0 4 4・4 2 2・5 9 0 1
副支部長 (大竹)	0 4 5・2 6 2・9 3 0 3

TEL・FAX

各学年幹事の連絡先等もお問い合わせ下さい。